

掲示板のことば

安楽死で

死んでいける

社会を

目指すなら

希望を持てる

社会では

ありません

日本一外出するALS患者 岡部宏生

2024. 07

この言葉は、TBSの「報道特集」の中で岡部さんが表現されていた言葉です。「報道特集」の前半にはスイスで安楽死を遂げた日本人の女性を取材し、その方の言葉として、「日本でもいつか安楽死が合法化されることを願っています」という言葉を映像と共に紹介しています。

一方後半では、48歳でALS（筋萎縮性側索硬化症）を発症した元医師の岡部さん取材しています。岡部さんは「日本一外出するALS患者」と呼ばれていて、悩む他の患者さんたちの元を訪ねて、月の半分以上は外出していらっしゃいます。

岡部さんは現在話すことができないため、目の動きで文字盤を追い、介助士に一文字ずつ読み取ってもらって表現をしていらっしゃるようです。

将来を悲観し、何度も自殺することを考えたそうですが、「障害に縁がない人にも生きることについて考える機会を提供したい」との思いから、生きる道を選び、障害者の現状を訴えていらっしゃいます。

僕は、安楽死には反対したいという気持ちを持っています。理由は大きくは二つあります。一つは、僕に「いのちは誰のものか」という問いがあるからです。僕は、いのちは人間のものではないと思っています。だから、人間が殺してはならない、と思うのです。このいのちに「生きよ」と願うはたらきを信じています。

もう一つは、「生きたい」と願い、そのことを口にすることがはばかれるような社会になり、いのちの不平等が起きてしまうと思うからです。

生きることには希望の持てる社会を、未来を生きる人のために強く願います。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹